

放射線室技師長就任の挨拶



思いやりの医療をもって地域社会に貢献する

放射線室 技師長 藤原 正志

令和4年6月1日に放射線室技師長を拝命いたしました。

病院の理念にもありますように「思いやりの医療をもって地域社会に貢献する」をモットーにしています。また、座右の銘は「基本を大切に、継続は力なり」です。

放射線室の構成

放射線室は、25名（診療放射線技師24名、事務職員1名）で構成されています。

主に、画像センターでの業務をしております。画像センターでは、一般撮影、CT検査、MRI検査、X線TV検査、マンモグラフィー、骨密度検査、放射線治療を行っています。センター以外では、核医学検査、心臓カテーテル検査、頭部・腹部血管造影検査、衝撃波破碎、超音波検査、手術室3Dイメージ、ポータブル撮影などの業務を行っております。

放射線室の育成方針

放射線室の育成方針として、検査及び治療における知識・技術の向上はもとより、患者さんのメンタルな

部分へのフォローができる、思いやりのある医療従事者としてのスキルを身に付けた技師の育成を目指します。

また、チーム医療の一員として多職種との連携を図り、効果的・効率的な検査体制の提案、患者サービス、医療の質に貢献できる技師を育成していきたいと考えています。

当院で稼働している主な検査機器

- 64列CT Revolution EVO (GE社製)
Revolution Frontier (GE社製)
- 3TMRI SIGNA Architect (GE社製)
- 頭部・腹部血管造影 Azurion 7F 20 (PHILIPS社製：令和4年8月稼働予定)

松山市民病院は、「地域住民のために存在する」と理念に掲げています。

放射線室一丸となって地域社会に十分な医療貢献ができるよう取り組んでまいります。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

The Specialist

～薬剤部～



骨粗鬆症マネージャーの役割

薬剤部 統括課長 黒星 美奈

はじめに

骨粗鬆症患者は約1,280万人いると推定されていますが、治療を受けている患者は200万人程度と言われています。また、治療を開始しても継続率が悪く、骨粗鬆症骨折を予防するためには、治療率や治療継続率を上げることが重要となっています。

骨粗鬆症マネージャーとは

骨粗鬆症学会は骨粗鬆症リエゾンサービス（以下、OLS）という骨粗鬆症の啓発・予防・診断・治療に対する包括的診療支援システムを策定しており、サービスの提供者を骨粗鬆症マネージャーとして育成を図っています。

海外では同様の活動による治療率の向上で死亡率・再骨折発生率が低下し、医療費の削減につながる可能性が報告されています。

マネージャーは、学会が定める

国家資格（保健師、看護師など）を有し且つ、実際に医療・保健・教育活動に従事する者が、学会の参加や講習会の受講をしたのち、試験を受けることで取得することができます。

骨折リエゾンサービスとは

今年度の診療報酬改定で二次骨折予防継続管理料が新設されたことで、骨折リエゾンサービス（以下、FLS）という活動が注目されています。

FLSはOLSの一部で、二次骨折のみを対象としています。当院も今年4月からFLS活動を始めたところです。

現在は大腿骨近位部骨折患者を主として二次骨折予防に取り組んでいますが、椎体骨折患者も二次骨折率は高く、積極的な治療の介入が重要と考えられます。

最後に

今まで、マネージャーの資格は取得していたものの、薬剤師として患者指導の充実を図ることを主とした活動しか出来ていませんでした。

FLS活動として多職種と連携を図ることで、薬物療法以外に重要と考えられている栄養や運動療法なども専門職種から受けるシステムが構築されたことにより、よりよい患者教育ができ、転院後のフォローなどにも取り組むことが出来るようになりました。

まだまだ始まったばかりですが、FLS活動からOLS活動へと広げていけるよう尽力していきたいと考えています。



FLSチームのメンバー

筆者

宮本医師